

古書のたのしみ（令和七年一月）

土屋 博

一「箋註蒙求校本字引 完」石村貞一校閲、山口縣士族平川伸著
（文玉圃藏、出版人吉川半七、明治十四年刊、一一八丁）
古書價格參百圓也。凡例に曰く、「蒙求の書たるや諸史百家の書を錯綜して篇を成し或は源文を節略し或は其意を選拾す。故に大人君子と雖も其解に苦む所あり。況や少年子弟に於いてをや」と。冒頭は「王戎簡要」、晋書の列傳十三にありと。

二「續學生訓」大町桂月著
（博文館、明治三十五年刊、定價金貳拾五錢、二四八頁）
古書價格千五百圓也。「年頭の辭」に曰く、「語を寄す少年の士、卿等はこの新年に臨みて一年の計をなすと共に一生の計をなさざるべからず。豈に徒に嬉々として雑煮餅を食ふのみにして止むべけんや」と。

三「國文抄本 駿臺雜話 全」上田萬年編
（大日本圖書、明治四十四年訂正再版、定價金貳拾五錢、一二二頁）
古書價格五百圓也。初版は明治四十三年。はしがきに曰く、駿臺雜話は室鳩巢の隨筆にして、その文章は雅健にして精細、その載する所は凡そ鳩巢が門弟に向ひて講學の間に、道德・政治・經義・文學・人物・世事等につきて説話せし所を録せるものなり」と。

四「女學校用 日本歴史教科書 上卷」文學士渡邊世祐編
（三省堂書店發兌、明治四十五年修正再版、
古書價格二百圓也。第十八章「國文の隆盛 才媛の輩出」より、「國文は公卿にも巧なる人ありしが女子にも秀でたる人多く才媛の輩出はこの時ほど盛なるはなかりき」、「かくも女流の輩出せしは主として一條天皇の中宮上東門院の心をこの道にかたむけられし爲めなり」と。大河ドラマ「光る君に」にて話題となりたる刀伊の亂については、以下の通り。「京師の人人風流をゆめみつつ間に日本海のあなたより外敵あらはれぬ。マカツの一部に刀伊と呼ぶ勇悍の民ありて後一條天皇の時に來りて壹岐對馬をおかし民の財寶をかすめ家を焼き婦女老幼を殺し進んで筑前をおかせり。太宰権帥藤原隆家はこれを防ぎいたく敵を打破りて大に捷ちたりき」と。



五「益軒文鈔 完」光風館編輯所編

（光風館藏版、大正五年訂正再版、定價金貳拾八錢、一三四頁）
古書價格五百圓也。初版は大正四年。冒頭は大和俗訓より「立志」。「學問はまづ志を立つるを以て本となす」。

六「新訂 徒然草抄 上級用 全」文學博士松井簡治編

（三省堂、昭和五年修正六版、定價金五拾錢、一三九頁）
古書價格千五百圓也。初版は大正十年。扉に兼好法師短冊の眞蹟及び兼好法師壽像の寫眞あり、松井簡治は文久三年生れ、明治二十三年東京帝大教育科卒。學習院教授を経て東京高師に轉じ、昭和四年以降東京文理大學教授。

七「新譯註解 十八史略 下」伯井秋梧・小川晚翠共譯

（立川書店、昭和十年十七版、定價六拾錢、七〇二頁）
古書價格百五拾圓也。初版は昭和二年。

八「五名著國文鈔 全」佐藤正範編

（山海堂出版部藏版、昭和十二年訂正二十七版、定價金六拾錢、一六〇頁）
古書價格五百圓也。初版は大正七年。二度目の購入。
本居宣長の玉勝間、松平定信の花月草紙、村田春海の琴後集、中島廣足の樞園文集、室直清の駿臺雜話を收録す。

九「古事記全釋」臺北帝大教授文學博士植松安、東京高校教授大塚龍夫共著

（研文書院、昭和十五年三十九版、定價金五圓五拾錢、六四一頁）
古書價格參百圓也。初版は昭和九年。植松安は明治十八年生れ、明治四十一年東京帝大文學部卒。書物の最上段には宣長、篤胤などの説を參考としたる註解を掲げ、第貳段には古事記の漢字のみの原文、第三段に讀み下し文、第四段に口語譯を附す。

十「近古史談新釋」島田鈞一著

（有精堂、昭和十五年十四版、定價金壹圓參拾錢、四四二頁）

古書價格參百圓也。初版は昭和九年。二度目の購入なり。冒頭は、佐野の城主天徳寺了伯が琵琶法師に平家物語を歌はせ鳴咽したる話。編者の大槻磐溪曰く、活眼を以て活書を読むとの古人の言にかなへりと。

十一「平家物語略解」御橋徳言著

（藝林舎、昭和四十八年復刻版再版、定價八千圓、本文一〇二七頁）
古書價格五百圓也。御橋徳言（とくげん）は、明治十年鶴岡市生れ。初版は昭和四年。山田孝雄先生、序に曰く、「余、諸家の著に序を加ふるが如き事をなすを好まざるなり。然るに御橋君のこの著に對してはその請を斥くこと能はざる因縁あり」、「明治四十三年の秋頃、同君が佛教のみならず國典にも一隻眼を具する士たるを認めたるを以て、余は同君に勧むるに平家物語の註釋をものせられむことを以てしたり」と。

十二「三國志の人間學」城野宏著

（竹井出版、昭和六十一年四刷、定價千三百圓、二七二頁）
古書價格五百圓也。初版は昭和五十九年。城野宏は一九一三年生れ、一九八五年歿。東大法學部卒、野村合名會社入社。直ちに徴兵され、陸軍中尉、第一軍參謀部。山西省政府顧問補佐官となり、日本敗戦後も山西獨立を掲げ、毛澤東率ゐる中國人民解放軍と戦ふ。一九四九年捕虜となり禁錮十八年の刑を受く。一九六四年解放され歸國。獄中にて中國人に三國志の講義をしたる由。城野氏曰く、「中國には對抗馬を皆殺しにして自分が上に立つ傳統あり。中國の監獄はいつも大入り満員にて、自分の時には三人くらいしか入れぬ部屋に二十四人も入れられて居た」と。城野宏氏については、昔役所の中國通の先輩（奥方は朝日新聞の松井やより女史）より何度も噂を耳にしたところ也。

十三「江戸學のすすめ 貝原益軒の慎思録を読む」久須本文雄著

（佼成出版社、平成四年刊、定價千七百圓、二九七頁）
古書價格二百圓也。久須本文雄（ぶんゆう）は、明治四十一年三重県の禪林寺に生れ、臨濟宗大學及び九州帝大哲學科を卒業。貝原益軒曰く、「書を見るに多くを貪ることを要せず。只須く熟讀精思して道理を體認せんことを要すべし。」と。

十四「江戸の寺子屋入門 算術を中心として」佐藤健一編

（研成社、平成八年刊、定價本體千五百圓＋税、一五四頁）
古書價格二百圓也。副題は、「寺子屋で學んでいたことを體驗してみませんか」。「八算」と「見一」など、江戸の寺子屋にて教へたる教材の具體例を含む。

十五「易經講義」安岡正篤著

（致知出版社、平成二十一年二刷、定價本體千五百圓＋税、二〇五頁）

古書價格二百圓也。初版は平成二十年。昭和三十三年安岡正篤氏六十歳の折りの關西にての講座速記録なり。

十六「易と人生哲學」安岡正篤著

（致知出版社、平成九年十三刷、定價本體一四五六圓＋税、二三六頁）

古書價格千圓也。初版は昭和六十三年。近鉄社長佐伯勇社長の需めに応じ一九七七年より七九年に掛けて幹部社員に講義したるものの速記録なり。

十七「安岡正篤講話選集 易と人生哲學 易を人生にどう活かすか」安岡正篤先生講述CD十枚組（選集刊行會）

中古價格一万四千九百圓也。平成四年にカセットにて販売されたるものをCD化したるものなり。元の音源は、昭和四十七年及び昭和四十三年の講話、昭和三十五年ニッポン放送のラジオ講話なり。



十八「令和版全譯小説 伊勢物語」服部眞澄著

（講談社、令和二年刊、定價本體二千圓＋税、三〇二頁）

古書價格八百圓也。伊勢物語収集家の故芹澤新二夫妻のコレクション「鐵心齋文庫」の物語繪をふんだんに收録したる所に本書の一大特色あり。

（令和七年二月四日受附）